

コミュニティバス運行ルート(素案)及び時刻表(素案)についての委員意見と検討結果について

資料3

運行ルート(素案)について

委員意見		検討結果
【ルートの設定に対する意見】		
1	駅に出るルート、買物等に出るルートと使い分けができるため便利だが、目的地までの最短コースではないため利便性に欠ける一面がある	利便性と速達性を同時に達成するルートは困難なため、今回は交通不便地域の解消と交通結節点等を考慮してルートを設定しました。
2	公共施設などをルートに考慮する必要がある	
3	富士見が丘3丁目地区内の幹線道路以外は幅員が狭いため、幹線道路以外は走行が危険	ルート設定に考慮しました。
4	富士見が丘地域は、デマンドタクシー運行から替わるため、利用者が坂道を上下しなくてもすむような時間のかからないジグザグルートの検討	幅員の狭い道路があるため、ジグザグルートの設定は困難です。
5	買物支援向上として運行ルートに大型店(ザ・ビック)を加えたらどうか	大型店(ザ・ビック、西友、ロピア)へのルート設定は、利用状況や事業者の協力体制も含めて、今後の検討課題とします。
【バス停の設定に対する意見】		
6	バス停の設定について地区意見を集約し、意見する	
7	見直し前にあった元町、山西プール前、中里2丁目が無く、買物やラディアン利用に不便、新たに、町社会福祉協議会前と吾妻神社前も必要	バス停は今後の町民意見募集などを踏まえ、こまめに設定できるよう配慮します。
【運行に際しての意見】		
8	住宅街の路上駐車対策	警察とも連携し、地区に指導を行っていきます。
9	路線バスと同じ経路を走る場合に時刻の調整	分かりやすい時刻設定として団地中央の毎時「00分到着」としているため、可能な範囲で調整します。
10	駅南口での長時間待機は、待機場所が無いため検討が必要	分かりやすいルート設定として南北の起終点としましたが、ご意見を参考に、駅北口の起終点としました。
【全体意見】		
11	今までより便利になるよう公共施設や買物だけでなく、気軽な外出を含めた福祉的視点も加えて社会資源を考慮する必要がある	バス停をこまめに設定できるよう配慮します。
12	住民の希望に沿ったものか	すべての要望には応えることはできないため、今回は、見直しの方向性を示し、説明会などを開催して、これまでの実績や説明会での意見などを踏まえ、ルート設定しました。
13	バスの台数が複数あれば、ルートを限定することなく2本運行できる。	利用実績から判断をして、現状では1台での運行が限度です。
14	需要人数の把握や目標を達成できる設定としているか	現状の利用実績などから厳しい目標設定ではありますが、乗り支える仕組みを導入し、仕組みの理解と利用促進を図り、目標達成を目指します。

時刻表(素案)について

委員意見		検討結果
1	次のバス出発までの待機時間が長い	ルートを一部変更、バス停を追加などを行い、待機時間の短縮したルート設定としました。
2	運行時間に余裕がありそうなのでルート変更や停留所の検討は可能と思われる	
3	利用が多い時間帯は待機時間を減らし、快速運行の検討	分かりやすい時刻設定として団地中央の毎時「00分到着」としているため、今回の見直しで快速運行の実施は困難です。
4	運転手の連続運転時間が4時間を超えないようにすること	運転手の労働条件を考慮し、事業者と調整をします。
5	住民の最も利用する時間帯に設定する必要がある	コミュニティバスは路線バスを補完する役割を目的としているため、路線バスが運行していない地域や少ない時間帯などを運行していません。時刻表の設定については、町民意見を参考に設定します。

その他

委員意見		検討結果
1	利用しやすい交通となるよう、地域住民や道路管理者、警察等関係者の意見を踏まえ、検討が必要	説明会や町民意見募集等による意見を参考に設定し、関係機関等とも調整しながら設定していきます。
2	将来2台のバスで運行ができると利用者の増加に繋がる	利用実績を踏まえ、現状では1台での運行が限度ですが、乗り支える仕組みを導入し、持続可能な公共交通を確立できれば、可能と考えています。
3	利用者の増加、定着化を図るため、地区などの関わり方の検討が必要	乗り支える仕組みの導入を予定していますので、仕組みの理解を含めて運行地区などに協力を求めます。
4	利用者を増加するには、使い勝手の向上が必要で、スモールメリットを活用しつつ、社会資源の考慮した見直しを行い、住民の積極的な利用を呼び掛ける必要がある	公共施設などの社会資源を考慮して設定を行います。また、乗り支える仕組みの導入を予定していますので、積極的な利用を呼び掛けます。
5	コミバス利用の買い物客には帰りの運賃をお店が負担するシステムの導入の検討	乗り支える仕組みとして、町内商店などにも協力・連携を依頼し、地域公共交通の理解を求めます。